東京外環道大深度工事で突然の道路陥没、住民の方々は不安で夜も寝られない日々

～１０月２９日、リニア東京・神奈川連絡会が東京・調布市の現場を訪問

（仮の復旧作業＝上写真はＮＥＸＣＯ東日本）。

10月18日正午過ぎ、東京•調布市東ヶ丘２丁目の住宅街の市道がが崩落し、陥没は道路から住宅のガレージ真下にも広がりました。

午前9時半ごろ、東日本高速道路（NEXCO東日本）の関係者が現場の道路に細い亀裂が入っているのを見つけ警戒していましたが、亀裂は広がり、5m×3m、深さ5mの規模で陥没が起きました。NEXCO東日本は夕方からトラック50台を使って土砂を運び仮の復旧工事を行いました。

現場は東京外環道の大深度トンネルルートの真上に位置しており、この1か月前から振動や工事音、低周波を感じるという訴えがNEXCO東日本や調布市に寄せられていたことから、陥没はこの大深度工事によって発生したとみられます。

10月29日、現場の最寄りの駅で大深度地下使用認可取り消しを求めて活動している外環ネットの籠谷さんと待ち合わせ現場近くまで案内してもらいました。そこで陥没現場の間近にお住いのKさん（女性）とお会いし現場周辺で、住宅や壁の亀裂などの被害を受けたお宅の方3人から大深度工事の影響について話を伺いました。（写真＝閑静な住宅街）

あるお宅では門のわきのタイルがはがれ落ち、別のお宅では壁や敷地に亀裂が入っていました。Kさん方も敷地の一部に2センチほどの隙間と段差ができていました。

そして、現場から間近の方は自宅の中に招き入れていただき、陥没の１カ月前から、給水ボトルの水が揺れたり、明らかに工事から発生しているとみられる音が伝わってきたと話し、NEXCO東日本などに話してもても取り合ってもらえず、夜も眠れない状況だったと訴えていました。

地層・地質調査がおおざっぱすぎて、シールドトンネル工事の強行が陥没を引き起こした？

陥没現場のわきでNEXCO東日本は急遽ボーリング調査を行っており、作業を進めていた関係者は私たちへの説明の中で、現場地下は石が混じった地質であり、その石を取るためにシールド掘削に影響したのではないかと話しました。

現場から北に40m離れた場所（NEXCO中日本所有地）でも大掛かりなボーリング調査が行

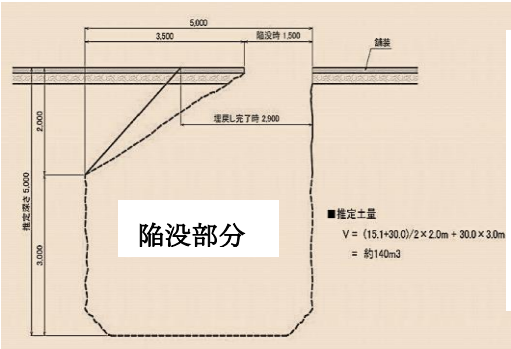
われていました。（その場所の地下で 11 月 2 日、長さ30m、厚さ3m、幅4mの大きな空洞が見つかりました）。

左の写真は亀裂が入った壁、右は1円玉で示した敷地内の段差。

他にもブロック塀のタイルが崩れた写真を見せてもらいました。すぐにＮEXCO東日本がすぐに修復作業を行いましたが、亀裂の後は残っていました。

最後にお寄りしたのはＣさん宅で家の中に入れていただき、大深度工事の影響を伺いました。シールドマシーンが家の下を通ることから振動や工事音をずっと感じるようになりましたが、NEXCO東日本は対応をしてくれず、家族も夜も寝られず、いつ家が崩れるかと不安でした。私たちの命と引き換えに工事を進めようとしており許せません」と話されていました。

Ｃさん宅の前はNEXCO中日本の土地で、訪れたときは大掛かりなボーリング調査中でした。（この調査でNEXCO東日本は11月2日に前述の空洞を見つけましたが、11月3日の説明会では空洞の存在は住民に知らされず、公表は4日になってからでした。また11月6日、7日の住民説明会では道路陥没の原因が大深度トンネル工事であるとNEXCO東日本は「調査中である」としか答えませんでした）。（右下写真＝このボーリング下で空洞を発見）



道路陥没場所の地下断面図（ＮＥＸＣＯ東日本）

道路陥没事故が起きてNEXCO東日本は南側の周辺地域で地下の調査を始めました。事前にルート上の家屋調査を行ったということですが、どの範囲まで家屋調査の対象になったのかはわかりません。私たちは、今回の道路陥没事故につい国交省やNEXCO東日本がきっちりとした調査を行い事故の原因が大深度工事であれば、住民に対して完全な補償を行う、今後についても住民の意向を最大限尊重すべきです。リニア新幹線の大深度トンネル工事にとっても重大な事故です。大深度地下だから安全という説明を撤回し、国が使用認可を取り消す時です。